



No. 4

近畿地方整備局
事業評価監視委員会
令和7年度第5回

あまがさきにしのみや あしや あまがさき

尼崎西宮芦屋港尼崎地区

国際物流ターミナル整備事業

【事後評価】

令和8年1月

近畿地方整備局

目 次

1. 事業の目的と計画の概要	2
2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	3
3. 事業の効果の発現状況	5
4. 事業を通して得られた知見・学び	6
5. 対応方針(案)	7

1. 事業の目的と計画の概要

(1) 事業目的

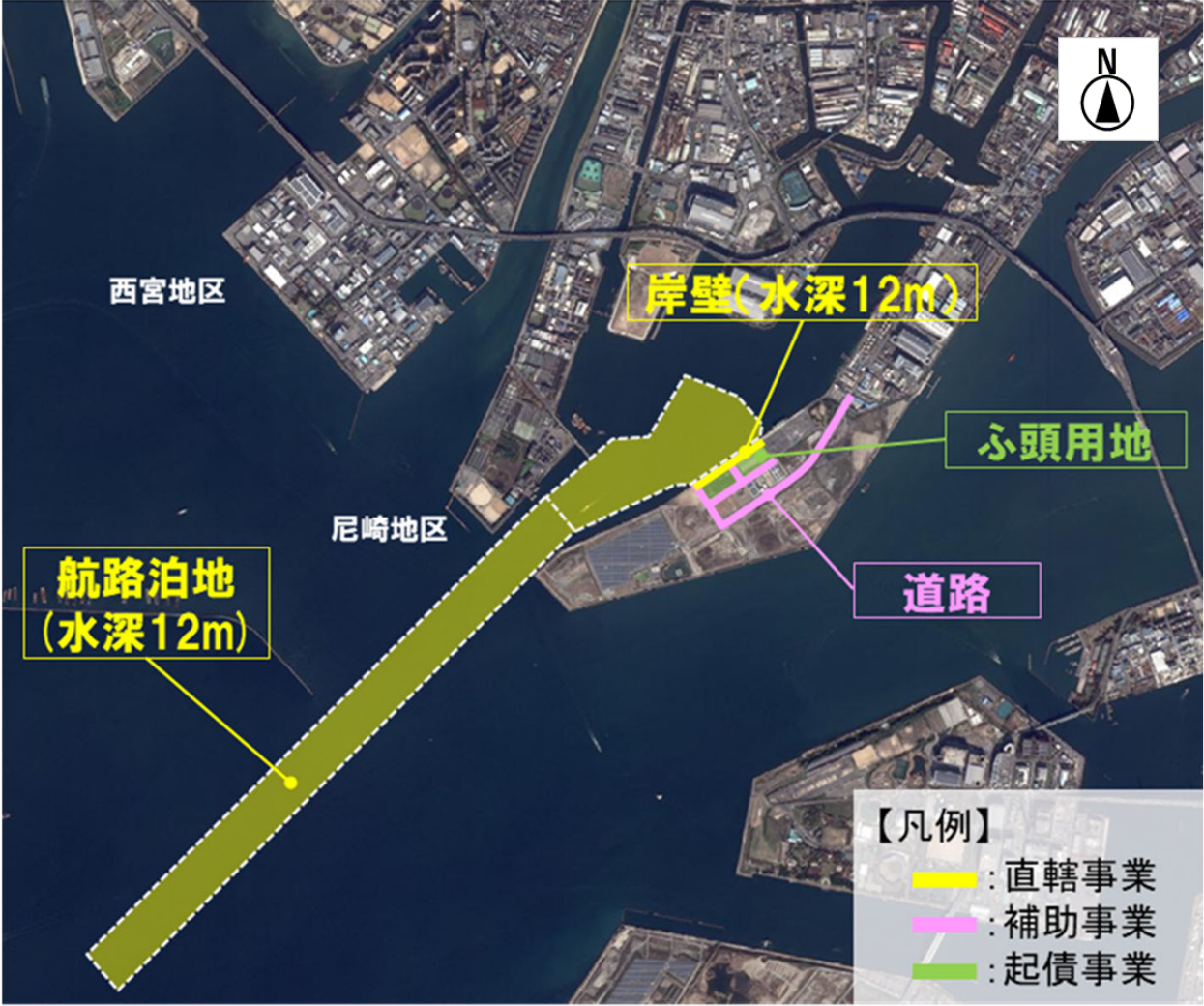
- 国際物流ターミナルを整備することにより、背後企業の物流の効率化を図る。
- 耐震強化岸壁を整備することにより、逼迫する大規模地震に対応した地域の防災力強化を図る。

● 事業概要

整備施設	岸壁(水深12m) 航路泊地(水深12m) 道路 ふ頭用地
事業期間	平成元(1989)年度 ～ 令和2(2020)年度
事業費	200億円



● 事業位置図



2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(2) 事業の経緯

- 尼崎西宮芦屋港尼崎地区では、背後企業の物流の効率化を目的とした施設整備を進めてきており、本事業で整備した岸壁は事業期間中の平成21年度及び平成28年度に供用が開始されている。
- なお、岸壁利用者の荷役形態を踏まえ、荷役機械の公共整備を見直した上で、事業完了とした。

● 当初計画及び前回評価との比較

	当初計画 (平成21年度)※	前回再評価 (平成29年度)	今回事後評価 (令和7年度)	備考
整備施設	岸壁(水深12m) 航路泊地(水深12m) 道路 埠頭用地 荷役機械	岸壁(水深12m) 航路泊地(水深12m) 道路 埠頭用地 荷役機械	岸壁(水深12m) 航路泊地(水深12m) 道路 埠頭用地	・ 前回再評価時より、荷役機械の公共整備を見直すことにより、事業費を縮減
総事業費	204億円	212億円	200億円	

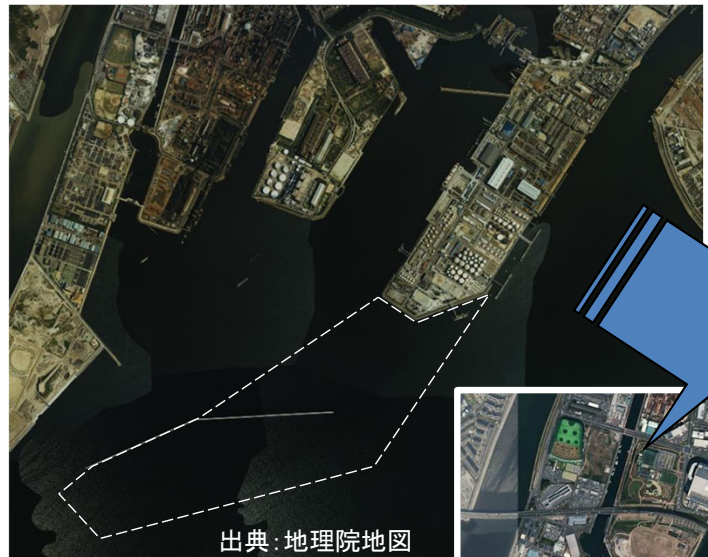
※耐震強化岸壁事業化後の平成21年度事業再評価時の値を記載。

2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(3) 施設の利用状況等

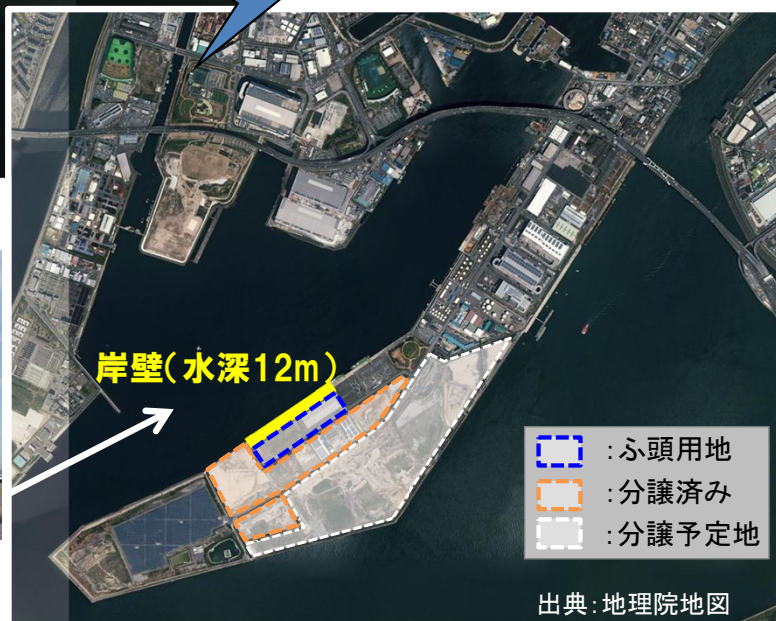
- 本事業で整備した岸壁等の供用開始後、主に自動車関連や鋼材関連企業が立地し、取扱貨物量が増大。
- 背後には分譲予定地があり、岸壁を利用する新たな企業の進出が期待される。
- 尼崎西宮芦屋港尼崎地区において、耐震強化岸壁は本事業箇所のみであり、本事業の実施により大規模地震発生時における緊急物資輸送などの対応が可能となった。

事業実施前(平成元年頃)



出典: 地理院地図

現在(令和7年)



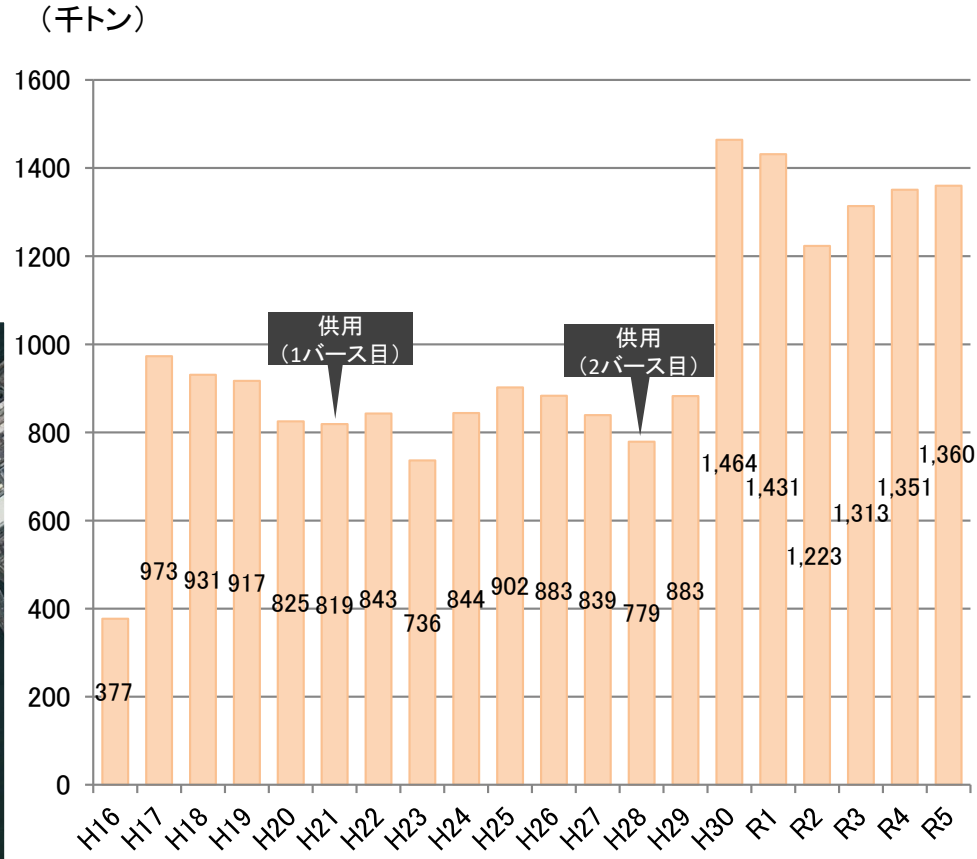
- ふ頭用地
- 分譲済み
- 分譲予定地

出典: 地理院地図



岸壁(水深12m)の利用状況

尼崎地区取扱貨物量



3. 事業の効果の発現状況

効果名	効果の概要
①定量的な効果 ・輸送コスト削減便益 ・震災時の輸送コスト増大回避 ・残存価値	879億円 ※現在価値化後の便益
②物流効率化による競争力の強化	港湾施設の整備により、物流の効率化を図る新たな企業が立地。 今後も企業立地に向けた投資拡大が見込まれており、海上輸送網の拠点として、産業の競争力強化を向上させる役割を担う。
③排出ガスの減少	陸上輸送距離の短縮に伴い、自動車のCO ₂ ・NO _x 排出量の減少に寄与する。 (CO ₂ :1,244トン-C/年 NO _x :9トン/年)
④労働力不足解消への寄与	陸上輸送から海上輸送への転換が図られることにより、トラックドライバーの不足や高齢化の解消に寄与する。
⑤地域住民の安全・安心の確保、 産業活動の維持	大規模地震発生時に緊急物資の安定的な輸送が可能となり、背後圏住民の生活維持が図られ、地域の安全・安心の確保に繋がっている。また、震災後も一般貨物輸送の確保が可能となり、物流の停滞回避が図られることにより、地域の産業活動の維持に寄与する。
⑥費用対効果(B/C) (算定に用いた主な効果:①)	全体事業:1.2

■利用者からの声

- ・ 尼崎西宮芦屋港は全国で製造される製品の海上輸送拠点であり、**物流効率化により競争力強化**に繋がっている。
- ・ 陸上輸送から海上輸送に転換するモーダルシフトにより**CO2排出量削減と労働力不足の解消に寄与**している。
- ・ 関西全域をカバーできる尼崎西宮芦屋港は、東西の広域配送の入出荷拠点として非常に地の利があるため、岸壁整備のタイミングで背後地に倉庫を移転した。
- ・ 貨物の入荷において岸壁を利用しており、**物流効率化に寄与**している。

4. 事業を通して得られた知見・学び

本事業を実施して、以下の知見・学びが得られた。

【事業計画】

- 岸壁背後の企業立地状況により、荷役形態が変動したため、施設の整備計画を見直した。

⇒港湾を取り巻く周辺情勢や荷役形態の変化を踏まえ、柔軟に対応していくことが重要。

- 施設利用者のニーズに合わせ、岸壁を先行供用することにより、早期の企業立地が実現した。

- ・岸壁（水深12m）：平成21年度供用

- ・岸壁（水深12m）（耐震）：平成28年度供用

⇒岸壁を段階的に先行供用をすることは、物流効率化等の早期の整備効果発現に有効。

- 岸壁（水深12m）の整備にあたり、航路泊地（水深12m）の浚渫土砂を裏埋材として有効活用することで整備コストを縮減した。

⇒事業計画の策定にあたり、コスト縮減を意識した整備手順等について検討することが有効。

5. 対応方針(案)

(1) 今後の事後評価の必要性

- 事業実施の効果が十分に発現されているため、今後の事後評価の必要性はないものと考えられます。

(2) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法について見直しの必要性

- 本事業評価において、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法について、見直しを必要とする事項はないと考えます。



No. 4

近畿地方整備局
事業評価監視委員会
令和7年度第5回

あまがさきにしのみや あしや あまがさき

尼崎西宮芦屋港尼崎地区

国際物流ターミナル整備事業

【事後評価】

(計算結果等参考資料)

令和8年1月

近畿地方整備局

尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業 費用対効果分析

費用便益分析シート(割引前)

(億円)										
年度	施設供用期間	建設費	管理運営費・再投資費	総費用 (C)	割 引 前					
					輸送コスト削減額	地震時緊急物資輸送コスト削減効果	地震時輸送コスト増大回避	残存価値	総便益 (B)	純便益 (B-C)
1989		1.08		1.08						-1.08
1990		5.07		5.07						-5.07
1991		12.33		12.33						-12.33
1992		21.83		21.83						-21.83
1993		15.66		15.66						-15.66
1994		18.17		18.17						-18.17
1995		28.88		28.88						-28.88
1996		16.21		16.21						-16.21
1997		11.23		11.23						-11.23
1998		11.07		11.07						-11.07
1999		5.45		5.45						-5.45
2000		5.21		5.21						-5.21
2001		5.43		5.43						-5.43
2002		2.78		2.78						-2.78
2003		4.50		4.50						-4.50
2004		10.72		10.72						-10.72
2005		11.16		11.16						-11.16
2006		9.52		9.52						-9.52
2007		14.16		14.16						-14.16
2008		11.80		11.80						-11.80
2009		16.59		16.59	2.40				2.40	-14.19
2010		6.65		6.65	1.53				1.53	-5.12
2011		3.58		3.58	2.47				2.47	-1.11
2012		6.58		6.58	2.21				2.21	-4.37
2013	1	0.63	0.13	0.76	2.80				2.80	2.04
2014	2	1.63	0.12	1.75	2.51				2.51	0.76
2015	3	1.74	0.12	1.86	2.87				2.87	1.01
2016	4	2.70	0.12	2.82	2.83				2.83	0.01
2017	5	1.94	0.12	2.06	2.98				2.98	0.92
2018	6	1.87	0.11	1.98	29.72				29.72	27.74
2019	7	3.12	0.11	3.23	28.00				28.00	24.77
2020	8	0.75	0.11	0.86	26.01				26.01	25.15
2021	9		0.10	0.10	30.17				30.17	30.07
2022	10		0.10	0.10	29.56				29.56	29.46
2023	11		0.09	0.09	30.40				30.40	30.31
2024	12		0.09	0.09	27.92				27.92	27.83
2025	13		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2026	14		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2027	15		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2028	16		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2029	17		0.09	0.09	27.92	0.03	1.28		29.23	29.14
2030	18		0.09	0.09	27.92	0.03	1.27		29.22	29.13
2031	19		0.09	0.09	27.92	0.03	1.26		29.21	29.12
2032	20		0.09	0.09	27.92	0.02	1.24		29.18	29.09
2033	21		0.09	0.09	27.92	0.02	1.22		29.16	29.07
2034	22		0.09	0.09	27.92	0.02	1.20		29.14	29.05
2035	23		0.09	0.09	27.92	0.02	1.17		29.11	29.02
2036	24		0.09	0.09	27.92	0.02	1.14		29.08	28.99
2037	25		0.09	0.09	27.92	0.02	1.11		29.05	28.96
2038	26		0.09	0.09	27.92	0.02	1.08		29.02	28.93
2039	27		0.09	0.09	27.92	0.02	1.05		28.99	28.90
2040	28		0.09	0.09	27.92	0.02	1.02		28.96	28.87
2041	29		0.09	0.09	27.92	0.02	0.98		28.92	28.83
2042	30		0.09	0.09	27.92	0.02	0.95		28.89	28.80
2043	31		0.09	0.09	27.92	0.02	0.91		28.85	28.76
2044	32		0.09	0.09	27.92	0.02	0.88		28.82	28.73
2045	33		0.09	0.09	27.92	0.02	0.84		28.78	28.69
2046	34		0.09	0.09	27.92	0.02	0.81		28.75	28.66
2047	35		0.09	0.09	27.92	0.02	0.77		28.71	28.62
2048	36		0.09	0.09	27.92	0.01	0.74		28.67	28.58
2049	37		0.09	0.09	27.92	0.01	0.71		28.64	28.55
2050	38		0.09	0.09	27.92	0.01	0.67		28.60	28.51
2051	39		0.09	0.09	27.92	0.01	0.64		28.57	28.48
2052	40		0.09	0.09	27.92	0.01	0.61		28.54	28.45
2053	41		0.09	0.09	27.92	0.01	0.58		28.51	28.42
2054	42		0.09	0.09	27.92	0.01	0.55		28.48	28.39
2055	43		0.09	0.09	27.92	0.01	0.52		28.45	28.36
2056	44		0.09	0.09	27.92	0.01	0.49		28.42	28.33
2057	45		0.09	0.09	27.92	0.01	0.46		28.39	28.30
2058	46		0.09	0.09	27.92	0.01	0.43		28.36	28.27
2059	47		0.09	0.09	27.92	0.01	0.41		28.34	28.25
2060	48		0.09	0.09	27.92	0.01	0.38		28.31	28.22
2061	49		0.09	0.09	27.92	0.01	0.36		28.29	28.20
2062	50		0.09	0.09	27.92	0.01	0.34	99.36	127.63	127.54
合 計		270.04	4.74	274.78	1,285.34	0.65	33.23	99.36	1,418.58	1,143.80

費用便益分析シート(割引後)

用便益分析シート(割引後)											EIRR= 4.5% NPV= 137 億円 B/C= 1.19		(億円)	
年度	施設供用期間	社会的 割引率	建設費	管理運営費・ 再投資費	総費用 (C)	割 引 後								
						輸送 コスト 削減額	地震時 緊急物資 輸送コスト 削減効果	地震時 輸送コスト 増大回避	残存 価値	総便益 (B)	純便益 (B-C)			
1989		4.10	4.43		4.43							-4.43		
1990		3.95	20.01		20.01							-20.01		
1991		3.79	46.78		46.78							-46.78		
1992		3.65	79.64		79.64							-79.64		
1993		3.51	54.94		54.94							-54.94		
1994		3.37	61.29		61.29							-61.29		
1995		3.24	93.67		93.67							-93.67		
1996		3.12	50.55		50.55							-50.55		
1997		3.00	33.68		33.68							-33.68		
1998		2.88	31.92		31.92							-31.92		
1999		2.77	15.11		15.11							-15.11		
2000		2.67	13.89		13.89							-13.89		
2001		2.56	13.92		13.92							-13.92		
2002		2.46	6.85		6.85							-6.85		
2003		2.37	10.66		10.66							-10.66		
2004		2.28	24.43		24.43							-24.43		
2005		2.19	24.45		24.45							-24.45		
2006		2.11	20.06		20.06							-20.06		
2007		2.03	28.69		28.69							-28.69		
2008		1.95	22.99		22.99							-22.99		
2009		1.87	31.07		31.07	4.50				4.50		-26.58		
2010		1.80	11.98		11.98	2.76				2.76		-9.23		
2011		1.73	6.20		6.20	4.28				4.28		-1.92		
2012		1.67	10.96		10.96	3.68				3.68		-7.28		
2013	1	1.60	1.01	0.21	1.22	4.48				4.48	3.26			
2014	2	1.54	2.51	0.18	2.69	3.86				3.86	1.17			
2015	3	1.48	2.58	0.18	2.76	4.25				4.25	1.49			
2016	4	1.42	3.84	0.17	4.01	4.03				4.03	0.02			
2017	5	1.37	2.66	0.16	2.82	4.08				4.08	1.26			
2018	6	1.32	2.46	0.14	2.60	39.11				39.11	36.51			
2019	7	1.27	3.95	0.14	4.09	35.43				35.43	31.34			
2020	8	1.22	0.91	0.13	1.04	31.65				31.65	30.61			
2021	9	1.17		0.12	0.12	35.30				35.30	35.18			
2022	10	1.12		0.11	0.11	33.25				33.25	33.14			
2023	11	1.08		0.10	0.10	32.88				32.88	32.78			
2024	12	1.04		0.09	0.09	29.04				29.04	28.95			
2025	13	1.00		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15			
2026	14	0.96		0.09	0.09	26.85	0.02	1.24		28.11	28.02			
2027	15	0.92		0.08	0.08	25.81	0.02	1.19		27.03	26.95			
2028	16	0.89		0.08	0.08	24.82	0.02	1.15		25.99	25.91			
2029	17	0.85		0.08	0.08	23.87	0.02	1.09		24.98	24.90			
2030	18	0.82		0.07	0.07	22.95	0.02	1.04		24.01	23.94			
2031	19	0.79		0.07	0.07	22.07	0.02	1.00		23.09	23.02			
2032	20	0.76		0.07	0.07	21.22	0.02	0.94		22.18	22.11			
2033	21	0.73		0.07	0.07	20.40	0.02	0.89		21.31	21.24			
2034	22	0.70		0.06	0.06	19.62	0.02	0.84		20.47	20.41			
2035	23	0.68		0.06	0.06	18.86	0.02	0.79		19.67	19.61			
2036	24	0.65		0.06	0.06	18.14	0.02	0.74		18.89	18.83			
2037	25	0.62		0.06	0.06	17.44	0.01	0.69		18.14	18.08			
2038	26	0.60		0.05	0.05	16.77	0.01	0.65		17.43	17.38			
2039	27	0.58		0.05	0.05	16.12	0.01	0.61		16.75	16.70			
2040	28	0.56		0.05	0.05	15.50	0.01	0.57		16.08	16.03			
2041	29	0.53		0.05	0.05	14.91	0.01	0.52		15.44	15.39			
2042	30	0.51		0.05	0.05	14.33	0.01	0.49		14.83	14.78			
2043	31	0.49		0.04	0.04	13.78	0.01	0.45		14.24	14.20			
2044	32	0.47		0.04	0.04	13.25	0.01	0.42		13.68	13.64			
2045	33	0.46		0.04	0.04	12.74	0.01	0.38		13.13	13.09			
2046	34	0.44		0.04	0.04	12.25	0.01	0.36		12.62	12.58			
2047	35	0.42		0.04	0.04	11.78	0.01	0.32		12.11	12.07			
2048	36	0.41		0.04	0.04	11.33	0.01	0.30		11.63	11.59			
2049	37	0.39		0.04	0.04	10.89	0.01	0.28		11.18	11.14			
2050	38	0.38		0.03	0.03	10.47	0.01	0.25		10.73	10.70			
2051	39	0.36		0.03	0.03	10.07	0.01	0.23		10.31	10.28			
2052	40	0.35		0.03	0.03	9.68	0.00	0.21		9.90	9.87			
2053	41	0.33		0.03	0.03	9.31	0.00	0.19		9.51	9.48			
2054	42	0.32		0.03	0.03	8.95	0.00	0.18		9.14	9.11			
2055	43	0.31		0.03	0.03	8.61	0.00	0.16		8.77	8.74			
2056	44	0.30		0.03	0.03	8.28	0.00	0.15		8.43	8.40			
2057	45	0.29		0.03	0.03	7.96	0.00	0.13		8.09	8.06			
2058	46	0.27		0.02	0.02	7.65	0.00	0.12		7.78	7.76			
2059	47	0.26		0.02	0.02	7.36	0.00	0.11		7.47	7.45			
2060	48	0.25		0.02	0.02	7.08	0.00	0.10		7.18	7.16			
2061	49	0.24		0.02	0.02	6.80	0.00	0.09		6.90	6.88			
2062	50	0.23		0.02	0.02	6.54	0.00	0.08	23.28	29.90	29.88			
合 計			738.09	3.54	741.63	834.94	0.40	20.24	23.28	878.85	137.22			

尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業 費用対効果分析【社会的割引率2%】

費用便益分析シート(割引前)

(億円)										
年度	施設供用期間	建設費	管理運営費・再投資費	総費用 (C)	割 引 前					純便益 (B-C)
					輸送コスト削減額	地震時緊急物資輸送コスト削減効果	地震時輸送コスト増大回避	残存価値	総便益 (B)	
1989		1.08		1.08						-1.08
1990		5.07		5.07						-5.07
1991		12.33		12.33						-12.33
1992		21.83		21.83						-21.83
1993		15.66		15.66						-15.66
1994		18.17		18.17						-18.17
1995		28.88		28.88						-28.88
1996		16.21		16.21						-16.21
1997		11.23		11.23						-11.23
1998		11.07		11.07						-11.07
1999		5.45		5.45						-5.45
2000		5.21		5.21						-5.21
2001		5.43		5.43						-5.43
2002		2.78		2.78						-2.78
2003		4.50		4.50						-4.50
2004		10.72		10.72						-10.72
2005		11.16		11.16						-11.16
2006		9.52		9.52						-9.52
2007		14.16		14.16						-14.16
2008		11.80		11.80						-11.80
2009		16.59		16.59	2.40				2.40	-14.19
2010		6.65		6.65	1.53				1.53	-5.12
2011		3.58		3.58	2.47				2.47	-1.11
2012		6.58		6.58	2.21				2.21	-4.37
2013	1	0.63	0.13	0.76	2.80				2.80	2.04
2014	2	1.63	0.12	1.75	2.51				2.51	0.76
2015	3	1.74	0.12	1.86	2.87				2.87	1.01
2016	4	2.70	0.12	2.82	2.83				2.83	0.01
2017	5	1.94	0.12	2.06	2.98				2.98	0.92
2018	6	1.87	0.11	1.98	29.72				29.72	27.74
2019	7	3.12	0.11	3.23	28.00				28.00	24.77
2020	8	0.75	0.11	0.86	26.01				26.01	25.15
2021	9		0.10	0.10	30.17				30.17	30.07
2022	10		0.10	0.10	29.56				29.56	29.46
2023	11		0.09	0.09	30.40				30.40	30.31
2024	12		0.09	0.09	27.92				27.92	27.83
2025	13		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2026	14		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2027	15		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2028	16		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2029	17		0.09	0.09	27.92	0.03	1.28		29.23	29.14
2030	18		0.09	0.09	27.92	0.03	1.27		29.22	29.13
2031	19		0.09	0.09	27.92	0.03	1.26		29.21	29.12
2032	20		0.09	0.09	27.92	0.02	1.24		29.18	29.09
2033	21		0.09	0.09	27.92	0.02	1.22		29.16	29.07
2034	22		0.09	0.09	27.92	0.02	1.20		29.14	29.05
2035	23		0.09	0.09	27.92	0.02	1.17		29.11	29.02
2036	24		0.09	0.09	27.92	0.02	1.14		29.08	28.99
2037	25		0.09	0.09	27.92	0.02	1.11		29.05	28.96
2038	26		0.09	0.09	27.92	0.02	1.08		29.02	28.93
2039	27		0.09	0.09	27.92	0.02	1.05		28.99	28.90
2040	28		0.09	0.09	27.92	0.02	1.02		28.96	28.87
2041	29		0.09	0.09	27.92	0.02	0.98		28.92	28.83
2042	30		0.09	0.09	27.92	0.02	0.95		28.89	28.80
2043	31		0.09	0.09	27.92	0.02	0.91		28.85	28.76
2044	32		0.09	0.09	27.92	0.02	0.88		28.82	28.73
2045	33		0.09	0.09	27.92	0.02	0.84		28.78	28.69
2046	34		0.09	0.09	27.92	0.02	0.81		28.75	28.66
2047	35		0.09	0.09	27.92	0.02	0.77		28.71	28.62
2048	36		0.09	0.09	27.92	0.01	0.74		28.67	28.58
2049	37		0.09	0.09	27.92	0.01	0.71		28.64	28.55
2050	38		0.09	0.09	27.92	0.01	0.67		28.60	28.51
2051	39		0.09	0.09	27.92	0.01	0.64		28.57	28.48
2052	40		0.09	0.09	27.92	0.01	0.61		28.54	28.45
2053	41		0.09	0.09	27.92	0.01	0.58		28.51	28.42
2054	42		0.09	0.09	27.92	0.01	0.55		28.48	28.39
2055	43		0.09	0.09	27.92	0.01	0.52		28.45	28.36
2056	44		0.09	0.09	27.92	0.01	0.49		28.42	28.33
2057	45		0.09	0.09	27.92	0.01	0.46		28.39	28.30
2058	46		0.09	0.09	27.92	0.01	0.43		28.36	28.27
2059	47		0.09	0.09	27.92	0.01	0.41		28.34	28.25
2060	48		0.09	0.09	27.92	0.01	0.38		28.31	28.22
2061	49		0.09	0.09	27.92	0.01	0.36		28.29	28.20
2062	50		0.09	0.09	27.92	0.01	0.34	99.36	127.63	127.54
合 計		270.04	4.74	274.78	1,285.34	0.65	33.23	99.36	1,418.58	1,143.80

費用便益分析シート(割引後)

EIRR=	4.5%	NPV=	375 億円
B/C=	1.53		

(億円)												
年度	施設供用期間	社会的 割引率	建設費	管理運営費・ 再投資費	総費用 (C)	割 引 後					総便益 (B)	純便益 (B-C)
						輸送 コスト 削減額	地震時 緊急物資 輸送コスト 削減効果	地震時 輸送コスト 増大回避	残存 価値			
1989		3.95	4.26		4.26							-4.26
1990		3.80	19.24		19.24							-19.24
1991		3.65	45.00		45.00							-45.00
1992		3.51	76.61		76.61							-76.61
1993		3.37	52.84		52.84							-52.84
1994		3.24	58.96		58.96							-58.96
1995		3.12	90.10		90.10							-90.10
1996		3.00	48.63		48.63							-48.63
1997		2.88	32.39		32.39							-32.39
1998		2.77	30.70		30.70							-30.70
1999		2.67	14.53		14.53							-14.53
2000		2.56	13.36		13.36							-13.36
2001		2.47	13.39		13.39							-13.39
2002		2.37	6.59		6.59							-6.59
2003		2.28	10.26		10.26							-10.26
2004		2.19	23.50		23.50							-23.50
2005		2.11	23.52		23.52							-23.52
2006		2.03	19.29		19.29							-19.29
2007		1.95	27.59		27.59							-27.59
2008		1.87	22.11		22.11							-22.11
2009		1.80	29.89		29.89	4.32				4.32		-25.57
2010		1.73	11.52		11.52	2.65				2.65		-8.87
2011		1.67	5.96		5.96	4.11				4.11		-1.85
2012		1.60	10.54		10.54	3.54				3.54		-7.00
2013	1	1.54	0.97	0.20	1.17	4.31				4.31		3.14
2014	2	1.48	2.41	0.18	2.59	3.72				3.72		1.13
2015	3	1.42	2.48	0.17	2.65	4.09				4.09		1.44
2016	4	1.37	3.70	0.16	3.86	3.88				3.88		0.01
2017	5	1.32	2.55	0.16	2.71	3.92				3.92		1.21
2018	6	1.27	2.37	0.14	2.51	37.62				37.62		35.11
2019	7	1.22	3.80	0.13	3.93	34.08				34.08		30.15
2020	8	1.17	0.88	0.13	1.01	30.44				30.44		29.43
2021	9	1.13		0.11	0.11	33.95				33.95		33.84
2022	10	1.08		0.11	0.11	31.98				31.98		31.87
2023	11	1.04		0.09	0.09	31.63				31.63		31.54
2024	12	1.02		0.09	0.09	28.48				28.48		28.39
2025	13	1.00		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24		29.15
2026	14	0.98		0.09	0.09	27.37	0.03	1.26		28.66		28.57
2027	15	0.96		0.09	0.09	26.84	0.02	1.24		28.10		28.01
2028	16	0.94		0.08	0.08	26.31	0.02	1.22		27.55		27.47
2029	17	0.92		0.08	0.08	25.79	0.02	1.18		27.00		26.92
2030	18	0.91		0.08	0.08	25.29	0.02	1.15		26.46		26.38
2031	19	0.89		0.08	0.08	24.79	0.02	1.12		25.93		25.85
2032	20	0.87		0.08	0.08	24.31	0.02	1.08		25.41		25.33
2033	21	0.85		0.08	0.08	23.83	0.02	1.04		24.89		24.81
2034	22	0.84		0.08	0.08	23.36	0.02	1.00		24.38		24.30
2035	23	0.82		0.07	0.07	22.90	0.02	0.96		23.88		23.81
2036	24	0.80		0.07	0.07	22.46	0.02	0.92		23.39		23.32
2037	25	0.79		0.07	0.07	22.02	0.02	0.88		22.91		22.84
2038	26	0.77		0.07	0.07	21.58	0.02	0.83		22.43		22.36
2039	27	0.76		0.07	0.07	21.16	0.02	0.80		21.98		21.91
2040	28	0.74		0.07	0.07	20.75	0.01	0.76		21.52		21.45
2041	29	0.73		0.07	0.07	20.34	0.01	0.71		21.06		20.99
2042	30	0.71		0.06	0.06	19.94	0.01	0.68		20.63		20.57
2043	31	0.70		0.06	0.06	19.55	0.01	0.64		20.20		20.14
2044	32	0.69		0.06	0.06	19.17	0.01	0.60		19.78		19.72
2045	33	0.67		0.06	0.06	18.79	0.01	0.57		19.37		19.31
2046	34	0.66		0.06	0.06	18.42	0.01	0.53		18.96		18.90
2047	35	0.65		0.06	0.06	18.06	0.01	0.50		18.57		18.51
2048	36	0.63		0.06	0.06	17.71	0.01	0.47		18.19		18.13
2049	37	0.62		0.06	0.06	17.36	0.01	0.44		17.81		17.75
2050	38	0.61		0.05	0.05	17.02	0.01	0.41		17.44		17.39
2051	39	0.60		0.05	0.05	16.68	0.01	0.38		17.07		17.02
2052	40	0.59		0.05	0.05	16.36	0.01	0.36		16.72		16.67
2053	41	0.57		0.05	0.05	16.04	0.01	0.33		16.37		16.32
2054	42	0.56		0.05	0.05	15.72	0.01	0.31		16.04		15.99
2055	43	0.55		0.05	0.05	15.41	0.01	0.29		15.71		15.66
2056	44	0.54		0.05	0.05	15.11	0.01	0.27		15.39		15.34
2057	45	0.53		0.05	0.05	14.82	0.01	0.24		15.06		15.01
2058	46	0.52		0.05	0.05	14.53	0.01	0.22		14.75		14.70
2059	47	0.51		0.05	0.05	14.24	0.00	0.21		14.45		14.40
2060	48	0.50		0.05	0.05	13.96	0.00	0.19		14.16		14.11
2061	49	0.49		0.04	0.04	13.69	0.00	0.18		13.87		13.83
2062	50	0.48		0.04	0.04	13.42	0.00	0.16	47.75	61.33	61.29	61.29
合 計			709.94	4.10	714.04	1,015.71	0.50	25.42	47.75	1,089.38	375.34	375.34

尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業 費用対効果分析【社会的割引率1%】

費用便益分析シート(割引前)

(億円)										
年度	施設供用期間	建設費	管理運営費・再投資費	総費用 (C)	割 引 前					
					輸送コスト削減額	地震時緊急物資輸送コスト削減効果	地震時輸送コスト増大回避	残存価値	総便益 (B)	純便益 (B-C)
1989		1.08		1.08						-1.08
1990		5.07		5.07						-5.07
1991		12.33		12.33						-12.33
1992		21.83		21.83						-21.83
1993		15.66		15.66						-15.66
1994		18.17		18.17						-18.17
1995		28.88		28.88						-28.88
1996		16.21		16.21						-16.21
1997		11.23		11.23						-11.23
1998		11.07		11.07						-11.07
1999		5.45		5.45						-5.45
2000		5.21		5.21						-5.21
2001		5.43		5.43						-5.43
2002		2.78		2.78						-2.78
2003		4.50		4.50						-4.50
2004		10.72		10.72						-10.72
2005		11.16		11.16						-11.16
2006		9.52		9.52						-9.52
2007		14.16		14.16						-14.16
2008		11.80		11.80						-11.80
2009		16.59		16.59	2.40				2.40	-14.19
2010		6.65		6.65	1.53				1.53	-5.12
2011		3.58		3.58	2.47				2.47	-1.11
2012		6.58		6.58	2.21				2.21	-4.37
2013	1	0.63	0.13	0.76	2.80				2.80	-2.04
2014	2	1.63	0.12	1.75	2.51				2.51	0.76
2015	3	1.74	0.12	1.86	2.87				2.87	1.01
2016	4	2.70	0.12	2.82	2.83				2.83	0.01
2017	5	1.94	0.12	2.06	2.98				2.98	0.92
2018	6	1.87	0.11	1.98	29.72				29.72	27.74
2019	7	3.12	0.11	3.23	28.00				28.00	24.77
2020	8	0.75	0.11	0.86	26.01				26.01	25.15
2021	9		0.10	0.10	30.17				30.17	30.07
2022	10		0.10	0.10	29.56				29.56	29.46
2023	11		0.09	0.09	30.40				30.40	30.31
2024	12		0.09	0.09	27.92				27.92	27.83
2025	13		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2026	14		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2027	15		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2028	16		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24	29.15
2029	17		0.09	0.09	27.92	0.03	1.28		29.23	29.14
2030	18		0.09	0.09	27.92	0.03	1.27		29.22	29.13
2031	19		0.09	0.09	27.92	0.03	1.26		29.21	29.12
2032	20		0.09	0.09	27.92	0.02	1.24		29.18	29.09
2033	21		0.09	0.09	27.92	0.02	1.22		29.16	29.07
2034	22		0.09	0.09	27.92	0.02	1.20		29.14	29.05
2035	23		0.09	0.09	27.92	0.02	1.17		29.11	29.02
2036	24		0.09	0.09	27.92	0.02	1.14		29.08	28.99
2037	25		0.09	0.09	27.92	0.02	1.11		29.05	28.96
2038	26		0.09	0.09	27.92	0.02	1.08		29.02	28.93
2039	27		0.09	0.09	27.92	0.02	1.05		28.99	28.90
2040	28		0.09	0.09	27.92	0.02	1.02		28.96	28.87
2041	29		0.09	0.09	27.92	0.02	0.98		28.92	28.83
2042	30		0.09	0.09	27.92	0.02	0.95		28.89	28.80
2043	31		0.09	0.09	27.92	0.02	0.91		28.85	28.76
2044	32		0.09	0.09	27.92	0.02	0.88		28.82	28.73
2045	33		0.09	0.09	27.92	0.02	0.84		28.78	28.69
2046	34		0.09	0.09	27.92	0.02	0.81		28.75	28.66
2047	35		0.09	0.09	27.92	0.02	0.77		28.71	28.62
2048	36		0.09	0.09	27.92	0.01	0.74		28.67	28.58
2049	37		0.09	0.09	27.92	0.01	0.71		28.64	28.55
2050	38		0.09	0.09	27.92	0.01	0.67		28.60	28.51
2051	39		0.09	0.09	27.92	0.01	0.64		28.57	28.48
2052	40		0.09	0.09	27.92	0.01	0.61		28.54	28.45
2053	41		0.09	0.09	27.92	0.01	0.58		28.51	28.42
2054	42		0.09	0.09	27.92	0.01	0.55		28.48	28.39
2055	43		0.09	0.09	27.92	0.01	0.52		28.45	28.36
2056	44		0.09	0.09	27.92	0.01	0.49		28.42	28.33
2057	45		0.09	0.09	27.92	0.01	0.46		28.39	28.30
2058	46		0.09	0.09	27.92	0.01	0.43		28.36	28.27
2059	47		0.09	0.09	27.92	0.01	0.41		28.34	28.25
2060	48		0.09	0.09	27.92	0.01	0.38		28.31	28.22
2061	49		0.09	0.09	27.92	0.01	0.36		28.29	28.20
2062	50		0.09	0.09	27.92	0.01	0.34	99.36	127.63	127.54
合 計		270.04	4.74	274.78	1,285.34	0.65	33.23	99.36	1,418.58	1,143.80

費用便益分析シート(割引後)

EIRR=	4.5%	NPV=	543 億円
B/C=	1.78		

(億円)												
年度	施設供用期間	社会的割引率	建設費	管理運営費・再投資費	総費用 (C)	割 引 後					総便益 (B)	純便益 (B-C)
						輸送コスト削減額	地震時緊急物資輸送コスト削減効果	地震時輸送コスト増大回避	残存価値			
1989		3.87	4.18		4.18							-4.18
1990		3.72	18.87		18.87							-18.87
1991		3.58	44.12		44.12							-44.12
1992		3.44	75.12		75.12							-75.12
1993		3.31	51.81		51.81							-51.81
1994		3.18	57.80		57.80							-57.80
1995		3.06	88.34		88.34							-88.34
1996		2.94	47.68		47.68							-47.68
1997		2.83	31.76		31.76							-31.76
1998		2.72	30.10		30.10							-30.10
1999		2.61	14.25		14.25							-14.25
2000		2.51	13.10		13.10							-13.10
2001		2.42	13.13		13.13							-13.13
2002		2.32	6.46		6.46							-6.46
2003		2.24	10.06		10.06							-10.06
2004		2.15	23.04		23.04							-23.04
2005		2.07	23.06		23.06							-23.06
2006		1.99	18.92		18.92							-18.92
2007		1.91	27.05		27.05							-27.05
2008		1.84	21.68		21.68							-21.68
2009		1.77	29.31		29.31	4.24				4.24		-25.07
2010		1.70	11.30		11.30	2.60				2.60		-8.70
2011		1.63	5.85		5.85	4.03				4.03		-1.82
2012		1.57	10.33		10.33	3.47				3.47		-6.86
2013	1	1.51	0.95	0.20	1.15	4.23				4.23		3.08
2014	2	1.45	2.37	0.17	2.54	3.64				3.64		1.10
2015	3	1.40	2.43	0.17	2.60	4.01				4.01		1.41
2016	4	1.34	3.62	0.16	3.78	3.80				3.80		0.02
2017	5	1.29	2.50	0.15	2.65	3.85				3.85		1.20
2018	6	1.24	2.32	0.14	2.46	36.89				36.89		34.43
2019	7	1.19	3.72	0.13	3.85	33.41				33.41		29.56
2020	8	1.15	0.86	0.13	0.99	29.85				29.85		28.86
2021	9	1.10		0.11	0.11	33.29				33.29		33.18
2022	10	1.06		0.11	0.11	31.36				31.36		31.25
2023	11	1.02		0.09	0.09	31.01				31.01		30.92
2024	12	1.01		0.09	0.09	28.20				28.20		28.11
2025	13	1.00		0.09	0.09	27.92	0.03	1.29		29.24		29.15
2026	14	0.99		0.09	0.09	27.64	0.03	1.28		28.95		28.86
2027	15	0.98		0.09	0.09	27.37	0.03	1.26		28.66		28.57
2028	16	0.97		0.09	0.09	27.10	0.02	1.25		28.37		28.28
2029	17	0.96		0.09	0.09	26.83	0.02	1.23		28.09		28.00
2030	18	0.95		0.09	0.09	26.57	0.02	1.21		27.80		27.71
2031	19	0.94		0.08	0.08	26.30	0.02	1.19		27.52		27.44
2032	20	0.93		0.08	0.08	26.04	0.02	1.16		27.22		27.14
2033	21	0.92		0.08	0.08	25.78	0.02	1.13		26.94		26.86
2034	22	0.91		0.08	0.08	25.53	0.02	1.10		26.65		26.57
2035	23	0.91		0.08	0.08	25.28	0.02	1.06		26.36		26.28
2036	24	0.90		0.08	0.08	25.03	0.02	1.02		26.07		25.99
2037	25	0.89		0.08	0.08	24.78	0.02	0.99		25.79		25.71
2038	26	0.88		0.08	0.08	24.53	0.02	0.95		25.50		25.42
2039	27	0.87		0.08	0.08	24.29	0.02	0.91		25.22		25.14
2040	28	0.86		0.08	0.08	24.05	0.02	0.88		24.95		24.87
2041	29	0.85		0.08	0.08	23.81	0.02	0.84		24.67		24.59
2042	30	0.84		0.08	0.08	23.58	0.02	0.80		24.39		24.31
2043	31	0.84		0.08	0.08	23.34	0.02	0.76		24.12		24.04
2044	32	0.83		0.07	0.07	23.11	0.01	0.73		23.85		23.78
2045	33	0.82		0.07	0.07	22.88	0.01	0.69		23.59		23.52
2046	34	0.81		0.07	0.07	22.66	0.01	0.66		23.33		23.26
2047	35	0.80		0.07	0.07	22.43	0.01	0.62		23.06		22.99
2048	36	0.80		0.07	0.07	22.21	0.01	0.59		22.81		22.74
2049	37	0.79		0.07	0.07	21.99	0.01	0.56		22.56		22.49
2050	38	0.78		0.07	0.07	21.77	0.01	0.52		22.30		22.23
2051	39	0.77		0.07	0.07	21.56	0.01	0.49		22.06		21.99
2052	40	0.76		0.07	0.07	21.34	0.01	0.47		21.82		21.75
2053	41	0.76		0.07	0.07	21.13	0.01	0.44		21.58		21.51
2054	42	0.75		0.07	0.07	20.92	0.01	0.41		21.34		21.27
2055	43	0.74		0.07	0.07	20.71	0.01	0.39		21.11		21.04
2056	44	0.73		0.07	0.07	20.51	0.01	0.36		20.88		20.81
2057	45	0.73		0.07	0.07	20.31	0.01	0.33		20.64		20.57
2058	46	0.72		0.06	0.06	20.11	0.01	0.31		20.42		20.36
2059	47	0.71		0.06	0.06	19.91	0.01	0.29		20.20		20.14
2060	48	0.71		0.06	0.06	19.71	0.01	0.27		19.99		19.93
2061	49	0.70		0.06	0.06	19.51	0.01	0.25		19.77		19.71
2062	50	0.69		0.06	0.06	19.32	0.00	0.24	68.76	88.33		88.27
合 計			696.09	4.51	700.60	1,145.72	0.57	28.93	68.76	1,243.97	543.37	

尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業 費用便益の概要

便益

項目	区分	単位当りの便益			便益(代表年)	
			単位	備考		単位
利用者便益	輸送コストの削減 (完成自動車)	4.3	千円／トン・年	陸上輸送距離の短縮による輸送コスト削減	22.7	億円/年
	輸送コストの削減 (鋼材)	3.8	千円／トン・年	陸上輸送距離の短縮による輸送コスト削減	3.1	億円/年
耐震便益	輸送コストの削減 (緊急物資)	7.6	千円／トン・回・年	耐震強化岸壁の整備による震災直後の輸送コスト削減	0.7	億円/年
	輸送コストの削減 (完成自動車)	3.9	千円／トン・年	耐震強化岸壁の整備による震災後の輸送コスト削減	20.5	億円/年
	輸送コストの削減 (鋼材)	14.6	千円／トン・年	耐震強化岸壁の整備による震災後の輸送コスト削減	11.7	億円/年
残存価値	残存価値	99.4	億円	ふ頭用地の残存価値 (評価期間の最終年に計上)	99.4	億円

* 便益の算出にあたっては、「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(令和6年6月)」を参照

費用

費用項目	建設費、管理運営費 等
事業の対象施設	岸壁(水深12m)、航路泊地(水深12m)、道路、ふ頭用地

■便益計算の考え方(尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業)

1. 輸送コストの削減【陸上輸送距離の短縮による輸送コスト削減効果(完成自動車)】

- ・尼崎西宮芦屋港を利用することによる完成自動車の輸送コスト削減額を算出する。なお、尼崎西宮芦屋港の近傍で、同規模の完成自動車の取り扱いが可能と考えられる名古屋港を代替港として設定する。
- ・将来貨物需要は、現在の取り扱いが継続するものとし、約52.6万トン/年と設定する。

Without	名古屋港を利用
With	尼崎西宮芦屋港を利用

○便益計算

■陸上輸送

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	526,330	
陸上輸送距離(往復距離) (km)	32.8～194.8	203.6～326.7
高速輸送距離 (km)	0～81.9	68.0～160.1
トラックの車種 -	20トン車	20トン車
トラック1台当たりの積載量 (FT/台)	20	20
年間輸送台数 (台/年)	26,318	26,318
1台当たり陸上輸送コスト (円/台)	36,812～94,364	101,354～141,809
1台当たり高速料金 (円/台)	0～5,691	4,750～10,981
年間陸上輸送コスト (百万円/年)	1,307.7	3,787.3
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	2479.6	

■海上輸送(移出/移入)

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	526,330	
海上輸送(片道距離) (海里)	233～567	39～421
船型 (GT)	12,687～13,732	12,687～13,732
航行速度 (ノット)	21.0	21.0
海上輸送日数 (日)	11.1～27.0	1.9～20.1
海上輸送費用原単位 (千円/日・台)	37.0～74.0	12.0～57.0
年間海上輸送コスト (百万円/年)	1494.1	1287.8
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	-206.3	

輸送コスト削減額 (百万円/年)	2273.3
------------------	--------

※四捨五入の関係により合計値が一致しないことがある。

2. 輸送コストの削減【陸上輸送距離の短縮による輸送コスト削減効果(鋼材)】

- ・尼崎西宮芦屋港を利用することによる鋼材の輸送コスト削減額を算出する。なお、尼崎西宮芦屋港の近傍で、同規模の鋼材の取り扱いが可能と考えられる堺泉北港を代替港として設定する。
- ・将来貨物需要は、ヒアリングに基づき約8.0万トン/年と設定する。

Without	堺泉北港を利用
With	尼崎西宮芦屋港を利用

○便益計算

■陸上輸送

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	80,400	
陸上輸送距離(往復距離) (km)	-	60.4
高速輸送距離 (km)	-	24.2
トラックの車種 -	-	10トン車
トラック1台当たりの積載量 (FT/台)	-	10
年間輸送台数 (台/年)	-	8,040
1台当たり陸上輸送コスト (円/台)	-	36,812
1台当たり高速料金 (円/台)	-	1,787
年間陸上輸送コスト (百万円/年)	-	310.3
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	310.3	

■海上輸送(移入)

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	80,400	
海上輸送(片道距離) (海里)	39～254	35～250
船型 (GT)	199	199
航行速度 (ノット)	10.0	10.0
海上輸送日数 (日)	0.16～1.06	0.15～1.04
海上輸送費用原単位 (千円/日・隻)	512.0	512.0
年間隻数 (隻/年)	12～90	12～90
年間海上輸送コスト (百万円/年)	42.3	40.9
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	-1.5	

輸送コスト削減額 (百万円/年)	308.9
------------------	-------

※四捨五入の関係により合計値が一致しないことがある。

3. 輸送コストの削減【耐震強化岸壁の整備による震災直後の輸送コスト削減効果】

・耐震強化岸壁の整備に伴い、被災後1ヶ月間に必要とされる緊急物資等を海上輸送で直接被災地域へ搬入することが可能となることによる輸送費用の削減額を算出する。

Without	堺泉北港を利用
With	尼崎西宮芦屋港を利用

【航空輸送費用】

	With	Without
対象貨物量 (FT/回)	104	104
ヘリコプター輸送回数 (回)	35	35
ヘリコプター輸送費用 (千円/時)	2,641	2,641
輸送費用(被災直後2日間) (千円/回)	92,418	92,418
輸送費用削減便益(千円/年)		0

【航空輸送時間費用】

	With	Without
輸送時間(被災直後2日間) (時間/台)	1	1
時間費用原単位<農水産品> (円/FT・時間)	124	124
時間費用(被災直後2日間) (千円/回)	20	20
輸送時間費用削減便益(千円/年)		0

【陸上/海上輸送費用】

	With	Without
対象貨物量 (FT/回)	8,929	8,929
輸送距離 (km)	13	23
輸送費用原単位 (円/台)	732	17,366
使用台数 (台)	9	2,977
輸送費用 (千円/回)	198	52,446
輸送費用削減便益(千円/年)		52,248

注) Without: 陸送、With: 海送

【陸上/海上輸送時間費用】

	With	Without
輸送時間 (時間/台)	0.7	4.1
時間費用 (千円/年)	3,310	19,388
輸送時間費用削減便益(千円/年)		16,078

注) Without: 陸送、With: 海送

緊急物資輸送費削減便益 (千円/年)	68,326
--------------------	--------

※四捨五入の関係により合計値が一致しないことがある。

輸送コスト削減便益額【緊急物資】 (震災後－緊急物資輸送)	(千円/年)	68,326
(地震発生確率考慮後)輸送コスト削減便益額【緊急物資】 (震災後－緊急物資輸送)※	(千円/年)	2,300

※)地震発生確率考慮後の便益額は、評価期間中の最大年(R9)の値。

4. 輸送コストの削減【耐震強化岸壁の整備に伴う震災後の輸送コストの削減効果(完成自動車)】

- ・尼崎西宮芦屋港を利用できることによる、大規模地震発生後における完成自動車の輸送コスト削減額を算出する。なお、大規模地震発生後において同規模の完成自動車の取り扱いが可能と考えられる名古屋港を代替港として設定する。
- ・対象貨物は、将来貨物需要と同様の約52.6万トン/年と設定する。

Without	名古屋港を利用
With	尼崎西宮芦屋港を利用

○便益計算

■陸上輸送

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	526,330	
陸上輸送距離(往復距離) (km)	32.8～194.8	193.4～316.6
高速輸送距離 (km)	0～81.9	64.1～156.2
トラックの車種	20トン車	20トン車
トラック1台当たりの積載量 (FT/台)	20	20
年間輸送台数 (台/年)	26,318	26,318
1台当たり陸上輸送コスト (円/台)	36,812～94,364	93,393～134,893
1台当たり高速料金 (円/台)	0～5,691	4,486～10,717
年間陸上輸送コスト (百万円/年)	1,307.7	3,588.5
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	2280.8	

■海上輸送(移出/移入)

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	526,330	
海上輸送(片道距離) (海里)	233～567	39～421
船型 (GT)	12,687～13,732	12,687～13,732
航行速度 (ノット)	21.0	21.0
海上輸送日数 (日)	11.1～27.0	1.9～20.1
海上輸送費用原単位 (千円/日・台)	37.0～74.0	12.0～56.0
年間海上輸送コスト (百万円/年)	1494.1	1266.5
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	-227.6	

輸送コスト削減額 (百万円/年)	2053.1
------------------	--------

※四捨五入の関係により合計値が一致しないことがある。

5. 輸送コストの削減【耐震強化岸壁の整備による震災後の輸送コスト削減効果(鋼材)】

- ・近傍の尼崎西宮芦屋港を利用できることによる鋼材の輸送コスト削減額を算出する。なお、なお、大規模地震発生後において同規模の鋼材の取り扱いが可能と考えられる近傍の港が存在しないため、陸上輸送を代替輸送として設定する。
- ・対象貨物は、将来貨物需要と同様の約8.0万トン/年と設定する。

Without	陸上輸送
With	尼崎西宮芦屋港を利用

○便益計算

■陸上輸送

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	80,400	
陸上輸送距離(往復距離) (km)	-	209.4~1,115.0
高速輸送距離 (km)	-	79.0~541.0
トラックの車種	-	10トン車
トラック1台当たりの積載量 (FT/台)	-	10
年間輸送台数 (台/年)	-	8,040
1台当たり陸上輸送コスト (円/台)	-	76,767~302,602
1台当たり高速料金 (円/台)	-	5,494~36,749
年間陸上輸送コスト (百万円/年)	-	1,217.0
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	1217.0	

■海上輸送(移入)

項目	With	Without
取扱貨物量 (FT/年)	80,400	
海上輸送(片道距離) (海里)	39~254	-
船型 (GT)	199	-
航行速度 (ノット)	10.0	-
海上輸送日数 (日)	0.16~1.06	-
海上輸送費用原単位 (千円/日・隻)	512.0	-
年間隻数 (隻/年)	12~90	-
年間海上輸送コスト (百万円/年)	42.3	-
輸送コスト削減便益 (百万円/年)	-42.3	

輸送コスト削減額 (百万円/年)	1174.7
------------------	--------

※四捨五入の関係により合計値が一致しないことがある。

6. 残存価値

・プロジェクトの供用期間(50年)の終了とともに、その時点で残った資産は精算されると仮定する。
 本プロジェクトにおいて残存価値を計上できるふ頭用地の残存価値を算出する。本プロジェクトの供用期間の終了と共に約99.4億円の残存価値が発生する。

【ふ頭用地】

項目	With	Without
ふ頭用地面積 (㎡)	72,000	—
土地価格 (円/㎡)	138,000	—
残存価値 (百万円)	9,936.0	

※四捨五入の関係により合計値が一致しないことがある。

尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業 事業費

(1)事業費

項目	数量	全体事業費 (億円)
工事費		183
岸壁(-12m)		87
基礎工	480m	43
本体工	480m	25
裏込及び裏埋工	480m	16
上部工	480m	1
舗装工	480m	1
付属工	480m	2
航路泊地(-12m)		72
道路Ⅰ，Ⅱ		11
ふ頭用地		13
用地費及び補償費		1
用地費		—
補償費		1
間接経費		16
合計(税込)		200

※ 各項項目の事業費については表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

(2)管理運営費

項目	数量	全体事業費 (億円/年)
管理運営費	1式	0.1

※ 港湾管理者へのヒアリングにより算出している。